

## 会員だより

# 「災害復旧に携わって ～(三重県の紹介)～」

三重県県土整備部  
施設災害対策課 主査  
細 渕 敏 史



施設災害対策課の職員（左から 2 番目が筆者）

## 1. はじめに

東日本大震災から 2 年半以上経過し、もう少しすると 3 年が経とうとしています。地震・津波により大きな被害を受けられた方々には心よりお見舞い申し上げます。また、我が県をはじめ日本は、地形、気象等の自然条件が厳しいため、毎年のように豪雨や台風により、洪水が発生しております。今年も、台風 18 号、台風 26 号などにより、激甚な被害が発生しました。早期の復旧、復興に向け日夜間わず、ご尽力されている関係者に心より敬意を表します。

## 2. 自己紹介

私は平成 7 年に入庁して、今年度で 19 年目を終えようとしています。現在の職場、県土整備部施設災害対策課で災害事業に携わり始めたのは、昨年 4 月からでもうすぐ 1 年目を終えようとしています。実は、災害復旧事業の現場経験は、入庁 3 年目に 2 箇所 of 道路災害を経験したぐらいで、災害担当として異動当初は多くの戸惑いがありました。しかし、庁内の先輩や同僚など経験豊富な人材に囲まれていることもあり、支えられながら今日まで業務に取り組んでまいりました。

## 3. 施設災害対策課職員の紹介

私の所属する施設災害対策課は、課長を含め 8 名体制となっており、課長 1 名、課長補佐 1 名、水防業務 2 名、災害復旧業務 2 名、事務業務 1 名、業務補助 1 名で業務を分担しています。

はじめに、課を統括している課長です。経験豊

富な職歴と、精通したパソコンの取り扱いで、課をマネジメントしてくれており、頼れる課長です。

次に、水防・災害等を統括して、対外的な問題も冷静な切り口からズバズバこなしてしまう補佐です。私と同じく 4 月に着任してから、2 人で本省協議に行く際には、協議資料の作成時、協議中、協議後の地方機関への対応等で多くの助言をマンツーマンでしていただきます。少し、持ち上げすぎ感はありますが、なくてはならない存在でした。

こうしたお二人と、同僚 5 名で毎日災害が起こらないことを願いながら、業務を行っていましたが、9 月に災害が発生した後は、再度災害の防止と早期の復旧を実現するため、皆が奔走していました。本省の担当者の方にも、大変ご迷惑をおかけし、全国的に災害が発生し協議が集中している中でも、時間を割いて夜遅くまで協議をしていただきました。結果、幹線道路等で早期の工事着手と現地の早期復旧がかない、速やかに交通解放がなされました。この場を借りて、お礼を申し上げます。

### 平成 25 年の主な被害の状況と応急対応状況

○二次災害防止のため、速やかに河川や道路等の応急工事を実施しました。

会員だより

国道422号(伊賀市)【道路崩壊】

川のはん濫状況



道路の崩壊状況



仮復旧の状況



国道163号(伊賀市)【道路崩壊】

道路の崩壊状況



復旧作業の状況



復旧の状況



## 会 員 だ よ り

### 4. 三重県の紹介

三重県は日本のほぼ中央に位置し、紅葉狩りや登山、スキーもできる山岳から、風光明媚なリアス式海岸が続くなど、豊かな自然に恵まれています。また、日本有数のアミューズメントスポット（鈴鹿サーキット、長島スパワールド等）も存在します。

さらに、伊勢エビ、あわび、牡蠣、ふぐなどの魚介類の宝庫としても知られています。この他、高級霜降り和牛で有名な松阪牛の産地でもあります。

そして、日本人の心のふるさととして親しまれる伊勢神宮や、世界遺産の熊野古道を有しています。このほか、俳聖松尾芭蕉や国学者本居宣長の生誕地、さらには伊賀流忍者の発祥地でもあります。



遊園地「ナガシマスパワールド」



鈴鹿サーキット



豊かな自然「御在所岳」



F1 日本グランプリや 8 耐が開催される「鈴鹿サーキット」



太平洋沿岸の「リアス式海岸」



日本有数の工業地帯「四日市コンビナート」

会員だより



海女小屋体験



新鮮な魚介類「牡蠣」



霜降り肉の芸術品「松阪牛」



三重県観光キャンペーン ～実はそれ、ぜんぶ三重なんです！～  
2013.4～2016.3

<http://www.kankomie.or.jp/> 参照



日本人の心のふるさと「伊勢神宮」



夫婦岩（伊勢市）・・・夫婦岩の間から昇る日の出や満月は必見。



日本有数の内堀「伊賀上野城」



「伊賀」は伊賀流忍者発祥の地

## 会員だより



世界遺産の「熊野古道」



熊野大花火



あまご料理

## 5. 災害対応力アップに向けた取り組み

## &lt;人財育成&gt;

- ・全国防災協会主催の「災害復旧実務講習会」への参加
- ・三重県建設技術センター主催の県内市町職員の技術の向上を目的とした技術研修会の開催（県庁担当者は、講師として参加）
- ・県庁職員の技術の向上を目的とした技術研修会の開催（県庁担当者は、講師として参加）。中級者向け、上級者向けとして、計5回開催

## &lt;災害時の対応強化&gt;

東日本大震災での津波被害や、県内での紀伊半島大水害の経験を受けて、大規模地震・津波が発生した際に、孤立が懸念される沿岸部の地域において、「道路啓開」（緊急車両等が通れるように、がれきなどを処理し、段差を修正するなど、救援ルートとして最優先で確保すること）を迅速に展開できる態勢の整備を昨年度から進めています。整備の中でも核となるのが「道路啓開基地」で、昨年10月に第1号基地が完成したところです。

さらには、有事の際、作業に当たる建設企業が担当する作業範囲を明示した道路啓開マップの作成や、巨大地震を想定した道路啓開訓練の実施も行っています。

## 6. おわりに

昨年4月に現在の職場に来てからもうすぐ1年になろうとしています。この1年を振り返ると、大変多くのことを学びながらの業務でした。多くの人に支えていただきながら現職場で1年、入庁後19年を過ごさせていただきました。今後も、三重県が繁栄し、災害が発生しても滞りなく復旧事業が進捗して、早期に復旧できることを願います。